

加藤与五郎博士ご指導の思い出

やまぎしゅんぺい
山崎舜平氏：談

フェライトを発明するなど科学技術の発展に大きな足跡を残した加藤与五郎博士が、刈谷で生まれてから今年で150年になります。記念行事や与五郎博士のエピソードなどを、3回にわたりお知らせします。今回は同志社大学在学中に与五郎博士に出会い、今もその教えを受け継いでいる山崎舜平氏に当時の思い出を聞きました。

文化観光課 ☎62-1037

山崎さんは与五郎博士からの教えを受けた後、「不揮発性フラッシュメモリ」の基になる画期的な技術を発明したんだ。スマホなどの身近な電子製品に欠かせない技術なんだって。



山崎舜平氏の経歴

半導体エネルギー研究所の創業者、代表取締役。同志社大学より1971年に博士を取得。2011年に名誉学位、2015年に社友の称号を授与される。1997年にMOS LSI素子技術の開発に対して紫綬褒章受章。2016年6月までに累計11,353件の特許を取得したとして、ギネス世界記録に認定。現在も研究の現場に立ち続けている。



「これでもか」というほど厳しく叱り、睨みをきかせ、「もう参った、もうしません」と観念するまで続ける必要があるのです」とおっしゃった。

私を叱る際、小柄な加藤先生は、うつむいた私の顔をじっと見上げ続けた。参ってしまつて益々うつむくと、先生は私の顔をさらにのぞき込むのだった。加藤先生は、私にとって本当に畏怖すべき存在で、先生が許して下さるまで私は少しも動くことが出来なかった。

しかしながら、先生のこの叱り方は、その人の魂にまで問いかけるような指導方法であったことが、この年になって少しずつ理解できてきた。フェライト磁石の共同発明者であった武井武先生も「加藤先生は叱り方が本当に上手い。弟子たちは皆、加藤先生のその叱り方・指導の仕方によって、先生を慕ってゆくのです」と、言っておられた。

私がこれまでの人生を歩んでこられたのも、先生の峻厳なご指導があったからこそである。私も晩年と言える年齢になってきたが、あの世に行つて加藤先生に再会した時、「弟子として失格だ」と怒られないように努力しながら、毎日を精一杯生きていく。どこまで先生の理想とする弟子に近づけるか、という修業は今も続いており、一生終わることはない。



▲研究所前の与五郎博士とトラ夫人



▲軽井沢研究所入口門前の与五郎博士 (1963年)

まさにも木が「イテテ…」と言出しそうなくらいになつて、その手を離れたところ、あらぬ方向に曲がついてきたヒマラヤ杉はまっすぐ天に向き直つていた。そして、加藤先生は「人の教育も同じだよ。正しいまっすぐな道を示して『添え木をする』ような指導をするだけではダメなんです。

大学3年生の夏、加藤与五郎先生が主催する「創造科学教育」のセミナーに、私も参加させていただいた。研修は、まず加藤先生からのお話を聞き、その後、学生の考えたアイデアを2件ほど先生の前で披露し、加藤先生に批評いただくという形式で行われていた。

研修期間中、先生がお年を召していたこともあり、軽井沢にある先生のご自宅と研修所との間の送り迎えを、学生が交代で行つていた。ある時、私が帰りの付き添いをさせていただいた時のこと、研修所の裏木戸の近くに背丈より少し大きいヒマラヤ杉が生えていた。その木は、あらぬ方向に曲がつて生えていた。すると、先生は杖を私に預け、おもむろに幹に両手を添え、グーツと反対側にヒマラヤ杉を曲げ戻した。私は「そんなに曲げたら木が折れてしまつ」と思い、半分止めに入ろうとしたくらいだった。先生は5分もの間、力をかけ続け、



▲創造科学教育セミナーの様子 (左から2人目が与五郎博士)

山崎さんの原点は、与五郎博士から受けた「創造科学教育」にあったんだね。11月6日(日)に南部生涯学習センターで、山崎さんから与五郎博士とのエピソードが聞ける講演が開催されるよ。詳しくは9月15日号の第2回の特集で確認してね。次回もお楽しみに！



▲加藤与五郎展示室

与五郎博士は明治5年に現在の野田町西屋敷で生まれたんだ。昭和55年に刈谷市功労者、平成12年には刈谷市名誉市民になったんだって。南部生涯学習センター(たんぼぼ)の加藤与五郎展示室では博士の功績が紹介されているよ。